

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	8 / 1962 / 16-20
タイトル	浪館山の最近の新分布確認種、新記録種、分布種の動き
著者名	中井保夫

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

浪館山の最近の新分布確認種、 新記録種、分布種の動き

2年中井保夫

浪館は古くからゴマシジミ、ウラナミアカシジミ等の蝶によって代表されるようによく虫屋に知られてきましたが、最近ではウラムシジミ、オナガシジミ、メスアカムラサキ、チャマトラセセリ等の蝶類に、紅点を見出し、一つの資料として思い、ここに書きしるすものです。

〔報文〕

いま、浪館山を説明するまでもないが、一つの型式として説明させていただきます。古川の停留所をいんばんに立つバスを利用し約10分後自衛隊青森駐屯部終点で下車する。自衛隊クランドに沿う道をほんの少しいくと田圃地帯に出る。ここは8月下旬中、ゴマシジミの多産地である。また、停留所に降り立ち、クランドを後にみて、巾の広い道路をいくと、やがて坂道となる。ここはヒメシロが多く、坂道をのぼりつめると、広い草地へと導かれていることを知り、それから草原性の蝶の多いことをさとののである。今来た道を進み途中で折れて、草地のきえる所にそって、小さな沢を左手にみながらしばらく行くと、林内へと道は続いている。さき程の小さな沢には、ハンノキが所々点在し、ミドリシジミの多産の因をなしている。さて、マツ林がほんの少し続き、中にカシワ、コナラ、ミズナラ等のまじる林が両側に所在する地点へと林の性格が変化する。ここは、ウラジロ等が多く、またさらに進むにしたがい、コナラが主体をなす地点となり、オオミドリ、ウラナミアカシ、アカシ、エソ等のセブが多産する。今年(1962年)ウラムシ8個体もその地点で採集されたのである。そこをつきぬけると、再びさきほどの草地につながっている広い草原へと続き、そこは近年はとれてい

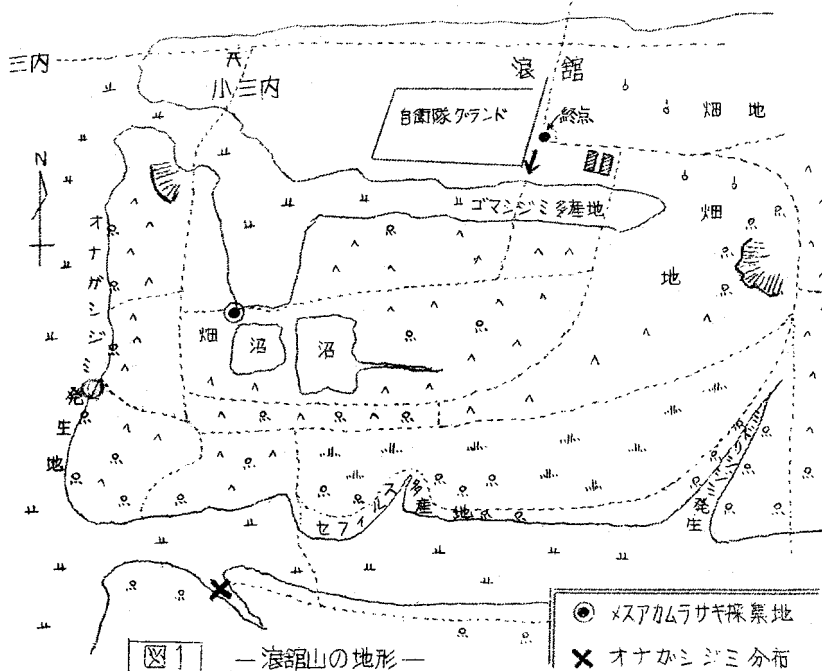


図1 浪館山の地形

いがオオルリの発生地となる。以上は、我々が通常浪館に行くといった時、とるコースである。その他オナガ等あまり行かない方に分布している種もあり、コースも多数あると思うが省略した。

全般的にみると山間に(余り高くない丘陵的でなだらか)田圃地帯を

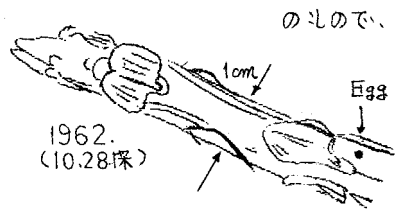
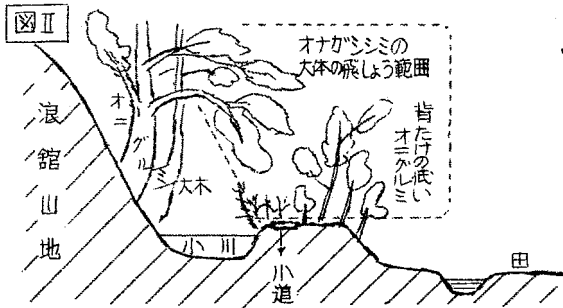
持ち、ハンノキ、ミズナラ等が多く、かつまた、比較的山道の整ったところで、道にまよふということとはすくない。沼のまわりにもハンノキが密集（比較的低い）し、ミドリシジミが多い。

(1) 新分布確認種

・ オナガシジミ *Araragi enthea*

1962・5・5	6L・3E	中井保夫
7・25	3	中井保夫
8・13	3	中井保夫
8月下旬	3日	中井保夫
10・28	3E	中井保夫

高田・滝沢等では、本種の定着が認められているが、浪館は今耳まで、1個体の記録さえなかった。私はそれが非常に不思議に感ずるくらいである。今年ゼフのEgg採集の折、偶然オニタルミの木に3Eをみとめ、この枝を切り取り家に持ちかえり調べると、さらに6Lかくわった。この文をかきこころには葉外多産し、他の地域の採集の不安定さに加えて足場の悪さ等の点に対し、確実と、研究採集には絶好の場であることを確認した。なお、10月の3日は図1の×記号の地点



の斗ので、くわしく

調べていないが、オニタルミ1本のみで割合高い木である。この地域は採集は試

みていないし発生量はわからないが、食樹の関係上すくないと思う。また、産卵位置の事であるが、ほとんどが枝にあたる所に生まれているが、前述の場所の低いオニタルミでは、幹的な部分（直径8cm位）に生まれているのも多数みられた。飛しょうは、始めとったとき蛾と同遅え、ネットよりながそうとしたほど、蛾のような飛しょう性質があった。一般に遅い（振り逃がした時等は例外として）。とまるときは羽を肉じるので裏面が鮮やかに見える。

・ イソミドリシジミ *Favonius jezoensis*

1962・7・12	2♂	中井保夫
-----------	----	------

これは2・3年前(?)から知られていたようですが、今までの浪館のリストにはなかったので、改めて追加する。上記の個体は占有的性格を示し、飛しょう後同一の場所へ止まるのを利用し採集したが、飛しょうの速さと高所のため捕えがたく、採集には技術を要するものである。食草はらしいが、筆者は経験浅くまだEggを得ていないが、今年田茂木野産のEggにより1頭羽化せしめた。

・ チャマタラセセリ *Dyrgus maculatus*

この種の説明は、本号に木田裕一が述べているので省略します。1960年に、中井1個体く

希型)を得ているが、管理不十分のため羽が残っているのみ。

(2) 新記録種

浪館の偶産的なチョウとして、キチョウ、ツマクロキチョウ、ツマクロヒョウモン等があるが、近年メスアカムラサキが青森の蝶に、すでに報告されいるとおり1♂採集された。

メスアカムラサキ *Hypolimnas misippus*

1961年9月3日 中井保夫

詳しいデータはないが、採集地でゴインジミが多数群飛していたという事と、晴であったということのみ。なお、飛しようは比較的ゆるやかであったので、大そうおおらかにみえたことだけは頭にこびりついて離れない。なお、丁度1年前の1960年7月17日に青森市野内村に1♂青藤民雄に記録されていることに注目されたい。なおまた、青森の蝶の報告記事中に、その日は比較的湿度が低かった筈であると太田裕一が説明しているが、気温はどうかかいしく記憶なしである。個体は比較的新鮮である。(標本 太田裕一所有)

(参考)

偶産的蝶の資料

キチョウ	1955年9月22日	1♂	棟方 堯
	23日	1♀	秋型 佐々木完治
	25日	4♂	〃
	10月2日	1♀	秋型 〃

注：(これはもつと他にあるらしいが)確実に知ったのは上記のみで、資料そろわずもれたのもあるでしょう。

ツマクロキチョウ 1956年8月30日 武田昭示
青森県初の個体である。

ツマクロヒョウモン 1953年 不明 1♀ 棟方 堯

以上のように浪館に偶産蝶の記録が多いのは、比較的交通の便がよく、また、虫屋の出入りの激しい(???)ところで、よく目が行きとどく(???)ということと、青森平野につき出ている山が浅いなど、いろいろ条件があると思うが、いずれにしても、そうした偶産蝶が浪館をおとすれて、それがネットに入ると共に大きな資料として利用されることに、ひろかによるこんでいるのもちよっとゆかいなことではないだろうか。(なお、メスアカムラサキの採集地は函Ⅰ◎印のところ)

(3) 分布種の動き

古いといっても1957年頃であるが、そのころの資料をみくらべての感想的なものをまとめてみた。なお、少量の資料のために、必ずしも言文と事実とは一致していないかも知れないが、自分としては自信のあるつもりである。

ウラナミアカシジミ、アカシジミ

この兩種は、次種ゴマシジミと並んで浪館山の象徴のようなものであるが、近年益々減少の一路

である。ひところは、紙吹雪のごとく、最盛期には30秒間に50頭の個体がみられたそうですが、今現実をみて、その話がいつわりのように思えるほど減っている。

ゴマシジミ

多産地もしだいに数を減少しているらしいが、付近に総合ブランドも設立されるらしく、さきゆき多産地の格下げが実現するかもしれない。しかし、自衛隊のさくの中に多いのは興味と安心感のようなものが湧くのである。

ウラムスシジミ *Wagimo signata*

浪館で以前まで確実に知れているのは1個体、太田裕一（ 年 月 日）ぐらいで、あとはよく知られていないが、今年8個体が新たに加わり、ウラムス定着が再確認されたのである。

1962年7月6日	1 (<i>signata</i>)	中井保夫
7日	1 (")	中井保夫
	2 (<i>quercivoya</i>)	高杉妙子
	1 (")	中井保夫
12日	1 (")	中井保夫
19日	1 (")	太田裕一
	1♀ (")	中井保夫

個体はそうとう羽がかすれており、捕獲がおくれたことを示すらしいが、性質上から短期でそうなるのかもしれない。いずれにしても7月上旬からの発生は向違いないように思う。なお、7月19日の太田の個体は奇型標本で、右側後翅が著しく小型である。また、同日にとれた中井の個体は比較的大型で翅表の青味もつよい早であった。食草はコナラといわれるが、確実なのは知られない。付近には、カシワ、コナラ、ミスナラ等があるが、それは後の調査を期待したい。

ミヤマチマバネセセリ

これも本号に太田裕一が報じているので省略させていただきます。

オオルリシジミ

記録によると、もともと少なかったらしく、近頃見られないのももっともであろう。畑地の侵入、年ごとの山焼きにより、生息地もしだいにせばめられてきている。今では浪館のまれ種である。

以上で大体の各種（10種）についての報告をおわり、次に浪館における今までの記録種をかかげました。（全部で6科77種ありますが、この中には、前述のとおり、偶産、記録、定着種もはいつていることに注意して下さい。）

また、この報告中 佚われた先輩諸氏の有益な文献・御研究報告に対して、あつくお礼を申し上げます。又本文ご訂正をお待ちする次第です。

シロチョウ科 9種

キナヨウ、ツマクロキナヨウ、スジボソ、ヒメシロ、モンシロ、モンキ、ツマキ、スジクロ、
エゾスジ

ジヤノメチョウ科 8種

ヒメウラナミ、ジヤノメ、ヒメジヤノメ、クロヒカゲ、キマタラヒカゲ、オオヒカゲ、ヒメキマ
タラヒカゲ、ツマジロウ

タテハチョウ科 23種

コムラ、コマタラ、イチモンジ、オオミスジチョウ、コムスジ、アサマイチモンジ、キタテハ、
シータテハ、アカタテハ、ヒメアカタテハ、ヒオドリ、クジヤク、ルリタテハ、ウラギンスジヒ
ヨウモン、オオウラギンスジヒヨウモン、ウラギンヒヨウ、ミドリ、メスクロヒヨウ、クモガタ
ヒヨウ、ヒヨウモンチョウ、メスアカムラサキ、ツマクロヒヨウモン、アサイチモンジ、

シジミチョウ科 23種

ムモンアカシ、カラス、ウラナミシジミ、アカシジミ、ウラナミアカ、オナガ、ミスイロオナガ、
ウラミス、ミドリ、オオミドリ、エメミドリ、ハヤシミドリ、ウラジロミドリ、ミヤマカラス、
コツバメ、トラフ、コイベニ、オオルリ、ゴマ、ルリ、ツバメ、ウラコマタラ、

セセリチョウ科 10種

チャマタラ、ミヤマセ、タイミヨウ、ギンイチ、コキマタラ、キマタラ、コチャバネ、オオチャ
バネ、ミヤマチャバネ、イチモンジ、

アゲハチョウ科

キアゲハ、アゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、

以上 6科61種

参考文献	室谷洋司、阿部 東 (1962年)	青森県の蝶
	棟方 堯 (1961年)	浪館の蝶 (青森の蝶 NO.4)
	太田裕一 (1962年)	青森市に記録されたメスアカムラサキ (青森の蝶 NO.5)
保育社	原色日本蝶類図鑑	